

偽りの教え-続編

2:20 もしあなたがたが、キリストとともに死んで、この世の幼稚な教えから離れたのなら、どうして、まだこの世の生き方をしているかのように、2:21 「すぎるな。味わうな。さわるな」というような定めに縛られるのですか。2:22 そのようなものはすべて、用いれば滅びるものについてであって、人間の戒めと教えによるものです。2:23 そのようなものは、人間の好き勝手な礼拝とか、謙遜とか、または、肉体の苦行などのゆえに賢いもののように見えますが、肉のほしいままな欲望に対しては、何のききめもないのです。

前回の説教で、「私は誰でしょうクイズ」をしました。その時に 2 番目に出題した人物を覚えていらっしゃるでしょうか？もしかすると、私が「特別な星のもとに生まれた」「十分な教育を受けなかった」と言ったので、皆さんは主イエス・キリストだと思われたかもしれません。しかし私が述べていたのは、イエスではなくウィリアム・ブランハムという人物についてでした。ブランハム氏は 1940 年代初期に、癒しのミニストリーを初めてアメリカで行った人物です。この無名とも言える人物が、その後も癒しミニストリーを行う人々に大きな影響を与えました。ブランハム氏は三位一体や聖書にある墮罪を否定し、その他に非聖書的な教理を教えました。恐らく彼の教理の中で最もユニークだったのは神の代弁をする、という主張でしょうか。彼に続く多くの人々が同様のことを公言していましたが、ブランハム氏に付き従った人々は彼が本当に「神の声」であると信じていました。ブランハム氏と彼の妻は 1965 年に車の事故で亡くなりました。彼に従った人々は終わりの時の一環として彼がよみがえると信じています。

皆さんがブランハムの信者について聞いたことがない可能性は高いと思うのですが、私は一度信者に会ったことがあるので、強く記憶に残っています。私が神学校へ通っていた時、インディアナ州にある教会の清掃とメンテナンスの仕事をしていました。その頃、ホームスクールをしているご家族の団体が私達の教会施設でクリスマスの劇を行いたいと申し出ました。子ども達の多くが「ウィリアム」や「マリオン」と名付けられていたので、私は変だなと思っていました。そのうちの一組の両親と話した際、彼らが皆同じ教会に通い、ほとんどの両親が同じ職場で働いていた、と教えてくれました。彼らは皆、ブランハム氏の説教と著書を印刷していた出版会社の倉庫で働いていたのです。彼らは自分の子ども達をウィリアム・マリオン・ブランハムにちなんで名付けていました。これはれっきとしたカルトなのですが、私はその時まで全く聞いたことがありませんでした。彼らはとても良い人たちだったのですが、彼らの告白する信仰と彼らが従う教師は、聖書が教えるそれとは一致していませんでした。この経験から私がつくづく思ったのは、偽りの教えはあらゆる人をその網に引き寄せてしまう、ということでした。ブランハム氏のカリスマ性と力強い話し方は多くの人々に彼を信じさせました。

聖書で教えられていないことを信じたり、実践したりといった罫に掛かってしまう人はたくさんいます。私達の課題は、提示されるあらゆる偽りの教えに対抗するよう準備しておかなければならないということです。今日は、偽りの教えを見抜き、それを避けるために私たちができる二つのこととお話ししたいと思います。一つ目は、自分自身の信仰をよく知らなければならないということです。二つ目は、耳にすることを解釈する能力を向上させなければならないということです。

1.もしあなたが、キリストとともに死んで...

まず、自分自身の信仰をよく知る必要がある、ということについて考えてみましょう。とても当たり前のことのように思えますが、どういうことなのか、少し時間をかけて考えてみる必要があります。コロサイ人 2:20 には、「もしあなたがたが、キリストとともに死んで、この世の幼稚な教えから離れたのなら、」とあります。この節の「もし」が私たちにとってとても重要です。もしキリストの内にいるのなら、です。パウロはコロサイの人々に、キリスト者としてのアイデンティティを訴えています。パウロはこの手紙を通して、クリスチャンであることの意味について教えています。しかし 20 節でパウロは、自分が教えたことや教会がすでに受けた教えのすべてを、さかのぼって繰り返し述べることはしていません。もし「キリストとともに死んだのなら」、このような偽りの教えのくびきの下に身を置くことの問題が何なのか分かるはずだ、と言っているのです。コロサイの信徒への手紙のこの部分におけるパウロの主張のすべてが、この「もし」に含まれています。「もし」あなたがキリストにあるなら、あなたはこの世に属しておらず、この世に戻る必要もないのです。偽りの教えが私たちを支配することがあってはなりません。パウロはコロサイの教会のことを気にかけていましたが、私たちも教会のあり方を気にかけなければなりません。

さて、これまで語ってきたこととは何でしょうか。もし私たちがキリストの内にあるならば、偽りの教えの重荷に戻るべきではありません。しかし、私たちが聞いているものが偽りの教えかどうか、どのようにして見分けることができるのでしょうか。何よりもまず、あなたが聞いているものは、聖書がキリストについて教えていることとして聞こえますか。私たちの信仰の焦点は、良い行いをすることでも、より深い真理を探求することでもありません。私たちの信仰の焦点は、主イエスというお方にあります。私たちの信仰の焦点は、私たち自身の自己発見にあるものではありません。私たちの信仰の焦点は、三位一体の神の御業にあるのです。神の存在、ご性質、そして働きという外側の客観的な真理が、私たちの行いの基礎となるのです。別の言い方をしましょう。偽札を見分けるために何を教えられると思いますか？一万円札の偽物をたくさん見せられると思いますか？もし、今までの偽物とは違う新しい偽物が作られたら、どうなるのでしょうか。簡単に言えば、何が偽物かを知りたいければ、何が本物かを知る必要があるのです。偽札を見分ける訓練を受けるなら、本物のお札を研究しなければなりません。

コロサイ 1-2 章を振り返ってみてください。この文章が明白に教えていることはすべて、私たちがしっかり押さえておくべきことです。私たちの主イエスは創造主であり、治める方です。教会のかしらです。私たちの救い主です。主はすべての霊的祝福の源です。私たちの信

仰の土台となる岩です。キリストにあって、私たちは神と出会います。キリストにあって、私たちは洗礼を受け、生かされるのです。キリストにあって、私たちはすべての罪を赦されます。

これは本当に驚くべき真理ですが、私たちがすでに一緒に学んだ箇所からだけでもこれだけのことが明らかなのですから、聖書の残りの部分を思えばさらにどれだけのことが学べるでしょうか。キリストを知ることは、偽りの教えの弱さを示すのに役立ちます。キリストとその教えを、どうして他の教えと交換することができるでしょうか。それは哀れな取引です。この点を離れる前にもう一つ。キリストをより深く知ることは、神学に傾倒する人たちだけの課題ではありません。すべてのクリスチャンの課題です。キリストが誰であるかの理解のために教会は大きな重荷を担いますが、自分自身で聖書の中を探索することも必要です。しかし、ここに問題があります。もし、自分で聖書を調べる自信がなかったら、どうなるのでしょうか。皆さんの励ましになることを2つ紹介します。一つ目は、レクチオ・ディヴィーノ (*lectio divino*: 霊的な読書) と呼ばれる概念です。これは、神聖な聖書を読むだけで霊的に有益であるという考え方です。聖書を読むと、ほとんどの人は何かを感じるものです。しかし、最も重要なことは、聖書を日常生活の中で定期的に読むようにすると、多くの観点で神の姿勢を真に知ることができるようになることです。二つ目は、聖書を読めば読むほど、聖書の語りかけに慣れ、聖書の解釈に自信が持てるようになります。

2. 「聞く耳と見る目」(21-23 節)

偽りの教えは、次の2つの間違いのいずれかに陥りがちです: ルールを作ること、または「新しい」教えを作ることです。私たちは、偽りの教えがクリスチャンやキリスト教会に立ち上がることを特に懸念していますが、他の信仰にも同じような傾向が見受けられます。このような革新は良いこととして見られることもありますが、ほとんどの場合、本来の宗教よりもカルトに近いものを生み出す結果になります。この現象は普遍的なものでしょうから、いくつかの結論を導き出すことができます。

私の経験では、偽りの教えはたいいてい良い思いから始まります。新しい規則を作って守らせようとすることの動機は、確信を持ち、自分の支配下におさめたいという欲求から来るのかもしれませんが。あるいは、真理を知り、知恵を得たいという深い願望があるかもしれません。あなた自身の人生にも、これと同じようなことが見られるのではないのでしょうか。しかし一方で、キリストが私たちの義であり、キリストのうちに必要なもの全てを見出すことを私たちは知っています。

21-23 節にこうあります。

「2:21 「すがるな。味わうな。さわるな」というような定めに縛られるのですか。2:22 そのようなものはすべて、用いれば滅びるものについてであって、人間の戒めと教えによるものです。2:23 そのようなものは、人間の好き勝手な礼拝とか、謙遜とか、または、肉体の苦行などのゆえに賢いもののように見えますが、肉のほしいままな欲望に対しては、何のききめもないのです。」

特に 23 節に書かれていることに注目してください。「賢いもののように見えますが... 肉のほしいままな欲望に対しては、何のききめもないのです。」

人間の心には神を知りたいという願いが秘められています、その願いは自分自身の罪と世の悪によって汚されているのです。私たちは神から離れ、自分にとって魅力的なものに目を向けてしまいます。私たちは自分の心に従い、神を疑う性質があるのです。そのため、偽りの教えが至る所にありますが、そのほとんどは人の心の中にあるのです。

エレミヤ書 17 章 9 節に「人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう。」とあるのは、そのためです。

クリスチャン生活の中で、皆さんも何らかの形で偽りの教えに出会うことになるでしょう。偽りの教えを聞いたとき、どのようにそれを見分けるのでしょうか？どのように対応すればよいでしょう？まず、耳にする時に注意を払うべき基本的な点がいくつかあります。例えば、楽しませるもの、あいまいな教えが強調されること、言葉の意味を変えてしまうことについて考えてみましょう。

私たちは皆、楽しませるものが好きです。皆が同じ種類の娯楽を楽しむとは限りませんが、退屈なものよりも楽しいものの方が、ずっと注意を引きやすいものです。しかし、ここでいう「楽しませるもの」とは、笑いが起こるときのことを指しています。笑いは良薬です。私たちのたましいをリラックスさせるので、本来なら良いことなのです。しかし、説教などの教えを聞いているときに、その中の冗談やおもしろい話だけが記憶に残っていることがあります。メッセージが楽しさの中に埋もれてしまうのです。ほとんどの偽教師は、「良い教師」でした。彼らは、人々を自分の軌道に引き込む方法を持っています。仮にその教師が怖くても、奇妙でも、彼らは人々の注意を引きつけることができます。ですから、ある人の教えを聞いて、それが今まで聞いた中で一番良かった、あるいは一番深かったと感じたら、時間をかけて、その人が教えたことを振り返ってみてほしいと思います。そして、自分が主イエスについてすでに信じていることと比べてみてください。

もう一つ、聞いていることに細心の注意を払わなければならない時は、非常に不明瞭なことが本質的なこととして語られている場合です。聖書の箇所や神学的なポイントの細かい部分が最も重要な事柄である場合もありますが、ほとんどの場合、本質的な事柄は明白なものです。深い意味が聖書の奥深くに隠されているわけではありません。それは忠実な読者が見ることのできる表面にあるのです。ですから、もし皆さんが、聖書にはっきり書かれていないことについての詳細な議論を聞いたなら、注意深く吟味して下さい。例えば最近、ある人がマルコ 8 章でイエスが盲人の目に唾を吐いたことについて大きな議論をしていることについて聞きました。その教師は、誰かの顔に唾を吐くという行為に何か意味を見出そうとしていたのです。その聖書箇所の焦点は唾を吐くことではなく、イエスはどんな人でもどのような方法でも癒すことができるということです。こういった人たちは勇気づけられることに着目しようとしているのかもしれませんが、聖書に自分の考えを押し付けようとしているのか

もしれません。

もう一つ注目すべき点は、言葉の意味が変わってしまう時です。むしろ、誰かが意図的に言葉や考えの意味を変えて、別のことを言うように仕向けるときとすべきでしょう。これは、ある言葉や考えの意味を細切れにして聖書にないものにしてしまったり、ある言葉や考えの意味を聖書で使われているのとは違う意味にするような場合です。実際には、神学における言葉などの定義を、これこそ聖書的なものだと断言するのは容易なことではありません。何事も謙虚に進めなければなりません、ここで重要なのは、何度も聞いたことのある言葉の意味が変わったり、新しい方法で説明がされたりしたら、その変化にいち早く注目することです。新しいことを耳にすることを恐れる必要はありませんが、新しいことを聞いているのだということは認識したいものです。

言葉の意味を変えようとする偽りの教えの具体例を挙げましょう。モルモン教会は、自分たちは神を信じていると主張しています。他のすべてのクリスチャンと同じ神を信じるということです。しかし、モルモン教の神の定義は非常に異質で、この二つが同じ神について話していると考えることは非常に難しいでしょう。モルモン教徒は、神はかつて人であったと信じています。人が模範的な人生を送り、今や神となったのだと。神になるという考えはモルモン教では不可欠な教えですが、非常に議論の余地があるものです。ある「人」が私たちが従う神になったという考えを受け入れるクリスチャンはほとんどいないでしょう。しかし、モルモン教徒はキリスト教徒が信じているのと同じ神を信じていると言い続けています。言葉は同じでも、意味が全く違うものに変化していることがわかりますね。皆さんは、言葉の意味を変えるような教えを聞いたことがありますか？

実は、私たちが耳にするものを評価すべく備えるためにできることはもっとたくさんあるのですが、1つ、2つの分野について注意深く聞き始めると、人々のコミュニケーション方法におけるパターンの違いに気づき始めることもあります。もし本当に教会の教えと自分たちの霊的生活を守りたいのであれば、何らかの手助けが必要だと思います。私が知っている最高の助けは、自分が耳にすることを話すことができる信頼できる人がいることです。偽りの教えの最も陰湿な傾向は、教会に不和の種を蒔くということでしょう。もし不確かなことを耳にしたら、誰かに話してください。これは、噂話をしたり、人のことを調べたりしたいからではなく、誰も一人で人生を歩むことはできないからです。私には、日頃から助けを求めている人がたくさんいます。私も時々、助けを求められることがあります。このように、私は教会に仕え、教会は私に仕えているのです。この関係があるべき姿です。

しかし、偽りの教えであると簡単に表現できるものもあります。三位一体を否定するもの、イエスの完全な人間性と神性を否定するもの、救いはキリスト・イエスだけにあることを否定するものは、クリスチャンとして受け入れるに値しないと見るべきでしょう。無作法になるべきではありませんが、キリスト教信仰の中核をなすものを否定している人たちと一緒に過ごすことは、あなたのたましいを傷つけることになるかもしれません。ここまでくると、

私たちは勇気を持つ必要があります。私たちは、臆病になったり、不敬虔に従うために召されたのではありません。

私たちは苦しむように召されているかもしれませんが、福音の真理が危機にあるときには、私たちは素早く真理を探求し、誰も真理から離れたことを教えることがないように求めるべきです。過去に騙されたことがある場合は、教えられていることに耳を傾ける謙虚さが必要です。しかし、もしその教えが聖書に反すると分かったら、私たちは真理のために立ち向かわなければなりません。私たちは、主イエスに倣いたいものです。主イエスは、人のために苦しみを耐え忍びましたが、父の家が不敬虔な利益のために使われたときには、情熱と勇気をもって神の家を守りました。パウロも異邦人との食事の問題でペテロに立ち向かったと言っています。私が言いたいのは、謙虚さと勇気の良いバランスを取るべきということです。私たちの目標は、議論に勝つことでも、自分がいかに霊的であることを示すことでもありません。私たちの目標は、私たちの主であるキリスト・イエスを信じ、そのことを世に知らせることなのです。そのために、私たちはキリストを知らなければなりません。キリストをより深く知れば知るほど、偽りの教えがどこから来ているのかを見抜くことが容易になります。聖霊が私たちを導いてくださるよう、また、神の栄光のための熱意を覚えて祈ります。主よ、私たちを助けてください。アーメン。一緒に祈りましょう。